



波 濤

第9号

発行 放送大学同窓会
神奈川学習センター支部
編集 総務委員会
責任者 松岡 和正
発行日 平成7年2月25日

同窓会設立5周年に向けて

神奈川学習センター支部

会長 稲葉恒夫

本年は、放送大学同窓会神奈川学習センター支部が設立されて5周年になります。この機会に今までの支部活動を振り返り、又、全国化に向けて益々発展して行くであろう放送大学にあって、同窓会神奈川支部の在り方を会員一同で考え、検討して、新たな方向づけをすべき時期でもあると思います。今日まで私たちは、支部活動施策として一、会員相互の親睦

一、生涯学習の達成 一、社会への貢献 以上3本の柱を立て、活動の重要課題としてまいりました。会員相互の親睦につきましては、年2回、会報「波濤」の発行、史跡や工場施設の見学会などを実施して来ました。生涯学習の達成として、年2回、大学の先生にお願いしての学術講演会や、その道のエキスパートを招いて座談会を催したりいたしました。社会への貢献では、国際援助事業としての「フォスタープラン」活動へ参加して、現在では3名の子供達のペARENTになっていきます。これらの活動行事は、会員各位のご協力と、役員の努力等により順調に発展し運営されてまいりま

した。この神奈川支部の活動は他の学習センター支部にも誇れる、貴重なものであると確信いたしました。何か行事をするについては必要経費が掛かります。この5年間の神奈川支部運営費は、会員の方が同窓会に入会なさる時、生涯会費として納入した1万円の中から2千円を支部費として助成を受けてきました。しかし生涯2千円の支部会費では会の運営が難しいとの判断で、会員各位のご好意による寄付を求めて現在まで運営してまいりました。支部費については抜本的改善が必要であるということから、助成金の引き上げを本部に具申した結果、本年度後期の新入会員から1名3千円に引き上げられました。それでも生涯会費3千円では、現行の活動を継続するのには不足です。何らかの形で別途収入を求めなければなりません。

同窓会神奈川学習センター支部設立5周年の節目にあたり、神奈川支部のより発展を願って、会員各位の支部活動に対するご意向をお伺いし、お知恵も拝借いたしましたので、アンケート調査を実施いたしますので、よろしくご協力くださるようお願いいたします。

「フォスター・チャイルドに愛の手を」
フォスター・プラン実行委員会
加藤あいし
神奈川学習センター支部の活動の一環としてフォスター・プランへの協力を始めてから、今年で5年目を迎えます。これまで会員の皆様方からお寄せいただいたご厚意に深く感謝し、心よりお礼を申し上げます。フォスター・プランについては、会報発行の度にお知らせしてまいりましたが、今回も少し説明を加えさせていただきます。

フォスター・プランとは、民間の国際援助機関であり、開発途上国の子どもたちの幸せを願って、子どもを取り巻くその家族と地域に対して経済的・精神的な援助を行うものです。神奈川支部では、会員皆様の暖かいご支援を戴いて、現在、次のフォスター・チャイルド3名に対する援助を行っています。

- ピラールちゃん
(グアテマラ 女子 15歳)
ソムチャイ君
(タイ 男子 9歳)
ルーシーちゃん
(ケニア 女子 5歳)
- 時折、これら3名のフォスター・チャイルドや家族、関係団体な

見学会のお誘い

(放送大学同窓会神奈川学習センター支部)

今年度も見学会を計画しました。
皆様のご参加をおまちしています!!

日時 4月9日(日) 午前9時30分~午後4時頃まで。

見学場所 1. 川崎市立日本民芸園 (入場料¥300)

2. 横浜ラーメン博物館 (入場料¥300)

☆☆☆ 館内で昼食の予定 ☆☆☆

3. 横浜ラポール (障害者スポーツ文化センター)

集合場所 小田急線「向ヶ丘遊園」駅南口改札口前

午前9時30分までにお集まりください。(雨天決行)

申し込み 3月末日まで。

参加参加ご希望の方はハガキでご連絡ください。

連絡先 幹事 越川敏子

〒231 横浜市中区山田町8-2-1008

(TEL 045-253-1305)

☆日本民家園までは徒歩で約15分ですが、園内が相当広いので歩きやすい靴でおいでください。

どから、現地の近況報告を兼ねた感謝の手紙や写真、絵などが送られてきます。私たちがアレントからも日本のこと、横浜や放送大学などを紹介する便りを出して情報交換をしています。

このフォスター・プランの趣旨と活動を一人でも多くの方に知って頂くため、昨年に続き今年も2学期の単位認定試験の期間を利用して、談話室に係書類をパネル展示し、併せてフォスター・チャイルドの国に関する資料を大使館から取り寄せて紹介しています。これを契機に、卒業生だけでなく在学生の方たちにも、この国際援助に関する理解を深めていただきたいと考えています。

活動を通して、援助の手を待っている世界の子供達の多さに驚くと共に、少しでもお手伝いできる環境に生活しているものとして、これからも援助の手を差し伸べる事ができたらと存じております。

今後とも、会員皆様方の一層のご理解

第3回支部連絡協議会開催される

平成六年九月三日(土) 午後一時三十分

分から、第3回支部連絡協議会が神奈川学習センターで開催された。同窓会支部活動の情報交換の場となつている支部連絡協議会は、毎年2回程度各支部持ち回りで開かれており、今回は神奈川支部が担当した。当日は各支部(群馬・千葉支部欠席)及び本部の代表25名の参加があり、五十嵐事務局長の司会により以下の三部構成で進められた。

第一部 自己紹介及び支部活動報告、意見交換など。各支部

とご支援を賜りますようお願い申し上げます。またこの活動が神奈川支部だけに止まらず、放送大学全体に広がりますよう祈っております。

お詫びとお礼

フォスター・プラン報告の記事にもありますように学習センター内でのフォスター・チャイルドの子供達の資料の展示の件についてご理解いただいている同窓会の皆様にご連絡できなかったことをここに詫言びいたします。

来年度も引き続き三人のフォスター・チャイルドの支援を活動方針にしておりますので今年度と変わらぬご支援をお願いするとともに多額の寄付をいただいたことにお礼申しあげます。

フォスター・プラン実行委員会

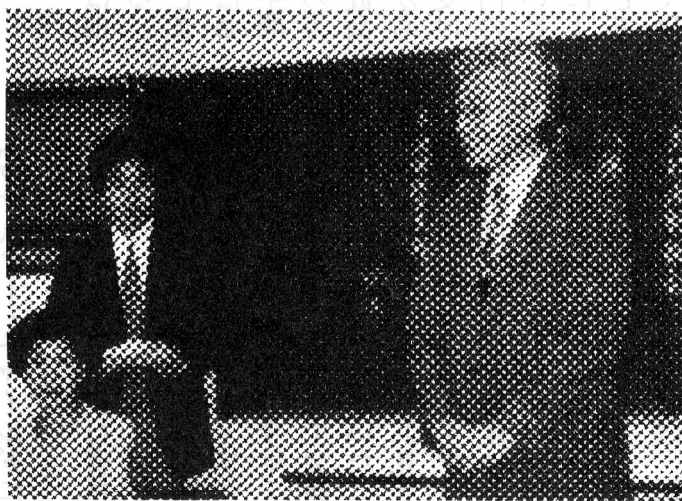
の活発な企画報告の他、放送大学全国化に伴う同窓会組織の在り方や財源面等が真剣に討議された。

第二部 フォスター・プランについてフォスター・プラン協会より煙草谷事務局長をお招きし、ビデオスライドを入れた活動状況の説明を伺い熱心な質問も多く出され、神奈川支部の活動の趣旨の理解を深めていただけた。

第三部 懇親会地下鉄関内駅から徒歩で中華街へ、横浜再発見の歓声も出たりする中、関帝廟で記念撮影後、会場大上海へ。和やかな雰囲気の中に懇親会が催され成功裏に終了した。

次回担当は埼玉支部に決定した。

(企画委員会)



平成7年3月1日

会員各位

放送大学同窓会
神奈川支部事務局

支部運営費と会費について

拝啓 春暖の候、ますますご清栄とお喜び申し上げます。

さて、前号の波瀾においてお願い致しましたとおり、同窓会費について会員の皆様には是非ご一考して戴きたく、支部運営費の年間収支の現状と今後の見通しについてお知らせ致しますので、ご検討のうえアンケートにお答え下さるようお願い申し上げます。会員の皆様にはご多忙のことと存じますが、今後の同窓会の発展の為にも宜しくお願い致します。

皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

敬 具

記

神奈川支部年度別収支比較表

(単位：円)

科 目	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度(仮)	平成6年度摘要
1 前年度繰越金	410,951	417,411	328,993	219,665	
2 収入の部					
(1)本部助成金	122,000	126,000	118,000	133,000	注1 2,000×38名・3,000×19名
(2)寄付金	62,700	57,782	74,663	101,147	年間平均
(3)利息	10,411	5,295	1,740	1,000	繰越金等
(4)雑収入	1,450	0	207		
小 計	196,591	189,077	194,610	234,147	
合 計	607,542	606,488	523,603	453,812	
3 支出の部					
(1)活動費	(63,234)	(98,662)	(89,825)	(90,000)	注2 用紙代・印刷代 年2回
会報費	3,234	9,080	8,865	60,000	注3 F・P援助及び講演会費
活動運営費	60,000	89,582	80,960	30,000	
(2)事務局運営費	(126,897)	(178,833)	(214,113)	(240,000)	議事録コピー代
会議費	1,969	8,639	28,612	20,000	旅費規則に基づく
交通費	29,280	59,840	72,990	80,000	
通信費	52,715	83,377	99,275	110,000	会報送付 @90×350名×2回=63,000
					総会用はがき @100×350名=35,000
					講演用はがき @50×200名=10,000
					その他 事務通信等
振替手数料	0	110	110	110	
消耗品費	11,793	4,471	1,162	2,000	マジック・ボールペン等
交際費	5,178	16,077	5,304	6,000	
慶弔費	3,553	0	0	10,000	
外注費	11,709	6,319	6,660	7,000	
備品費	0	0	0	0	
雑費	10,700	0	0	4,890	
小 計	190,131	277,495	303,938	330,000	
4 次年度繰越金	417,411	328,993	219,665	123,812	
収支差額	6,460	▲88,418	▲109,328	▲95,853	
会員数	179名	242名	298名	346名	
一人分の支出	1,062	1,147	1,100	954	

(表-1)

(表-1)でご理解いただけますように、各年度の支出は収入を上回っており、平成4年度以降は差額分を繰越金からの支出に頼っています。さらに本年度から会報波濤の発行に伴う費用が増額(注1)致しましたので、支部では支部活動の一部を削減し活動費の減額(注2)を試みました。

しかし、支部活動費は平成6年度においても、現在の収入 234,147円に対し支出は概算で330,000円と 95,853円が不足分となり残金から差し引かれ、現在の残金は、123,812円ということになります。

注1 会報波濤…昨年度までは用紙代のみで済んでいましたが、(前任者のご好意により)今年度から印刷費用 400部 27,000円が必要。

注2 フォスター・プラン…援助金、年間 60,000円を年間 10,000円に減額。
講演会…年2回開催を年1回開催に減らす。

次に、今後の収支を予測してみたいと思います。収入の予測は(表-2)の条件で行いました。

卒業生	200名	今までは、約100名前後でしたが卒業要件改訂にともない2倍で計算
入会者	100名	過去統計により卒業生の50%
本部助成金	300,000	1名 2,000円から 3,000円に変更
寄付金	70,000	平成6年度予算より
合計	370,000①	

(表-2)

次に、支出は単純に増員数分の通信費のみ増額することとしました。(表-3)

通信費	18,000	会報送付(@90x100名x2回 =18,000)
	10,000	總會用はがき(@100x100名 =10,000)
	5,000	講演会用はがき(@50x100 = 5,000)
小計	33,000	②毎年増額
固定支出	330,000	③平成6年度予算の概算より
支出合計	363,000	④

(表-3)

支部活動に伴い毎年確実に必要な支出を③、毎年入会者が増員するごとに増える支出を②とし、③ 330,000+② 33,000=④ 363,000 が来年度の支出合計となります。これを収入 ①から減算すると収支差額 7,000円が得られます。このような計算を年度別にシュミレートしてみますと(表-4)のような結果が得られます。

年 度	員数	通信費	支 出	収支差額	繰越金額
平成 7年度	446	33,000	363,000	7,000	130,812
平成 8年度	546	66,000	396,000	-28,000	104,812
平成 9年度	646	99,000	429,200	-59,000	45,812
平成10年度	746	132,000	462,000	-92,000	-48,188
平成11年度	846	165,000	495,000	-125,000	-171,188

(表-4)

(表-4)明らかなように、平成8年度から収支は赤字になり、支部活動も運営出来なくなる恐れがあると考えられます。そこで神奈川支部ではいくつかの改善案を提出致しますので、会員の皆様には率直なご意見を頂きたく、別添葉書のアンケート調査にご協力をお願い致します。

以 上

同窓会に入会して

放送大学を卒業して
平成6年3月卒業

平峰博文

私は放送大学卒業と同時に、ホームヘルパー2級の資格取得を通じて高齢者の介護の知識と技術の勉強をすすめています。私は放送大学入学にあたって4つの目標を立てました。「自分・人間を知る、社会を知る、仕事に役立つ知識を得る、五年で卒業する」というもので産業と技術専攻としました。興味の向くままに科目履修していましたが、卒業の目処が立ち卒業研究を視野にいれたとき、いったい自分の興味はどこにあるのかと考えると共に入学時の初心を思い起こすきっかけになったように思います。そして、取得した単位の傾向から生活と福祉の分野に興味が高いことを認識し、生活と福祉に専攻を変え卒業研究は「男性も女性と同様に高齢者介護を担うことが出来るか」というテーマで取り組みました。それをきっかけに自分も高齢者を支える一員になりたいと思うようになったのです。ホームヘルパーの教育は通信教育ですが専門学校での実習や講義、特別養護老人ホームでの介護実習を必修としており、これまでの生活には無かったという意味で異質といえる貴重な経験をしました。又この教育以外にも民間ホームヘルプ団体の介護教室、料理教室、手話講習、接遇マナーの市民講座等の受講、ジョギングによる体力向上など、実践への準備期間としています。もちろん、放送大学へも再入学しています。もっと若いときから人の役に立つ仕事をしたいと考えていたことに一歩を踏み出せたように思います。

放送大学でのこのきっかけを得たことは大きな収穫だったと思います。当初の目標のうち達成したものは卒業だけとなったわけですが、入学時の目標を五年間で達成できるというような性格のものでないことは明かです。生きていく限り悩みそして考え続けていくものであるうと思えます。これからは実践しながら勉強しつけていきたいと思っています。

胸張って、卒業生、と言うのも気が引けるが・・・

平成6年3月卒業

三浦虎彦

放送大学在学中には、ついつい、単位の取得に熱心になってしまった。何故かと言えば、なるべく短期間に大学卒業という肩書きを取得して、より有利な転職活動に役立てようと思っていたからである。故に、必要最小限の単位しか取っていないし、その内容の半分は二十代前半に中退した他大学で取得したもので、そのときの知識はもう殆ど残っていない。こんな状態であっても、それを足し合わせて124単位になったので、一応規定通り「卒業」とさせてもらった。本来なら、当初の予定に従って、老人ホーム等の職員となるため、国家資格取得などのステップアップを図っていくはずであった。しかし、そのとき既に三十歳を越え、それまでの多様な人生経験(?)から生じた数々の疑問を抱いていた小生の頭に浮かんだことは、「なんだか解らないことが多すぎる。これをそのまま置いといて転職とか安定だけに邁進しても果たして真の充実が云々・・・」ということだった。そのような妄想は、在学中から日々激しくなってきた。卒業の頃

になると大学院進学を計画し始めて、当初の堅実な方針を見送ってしまったのである。

常識的にみても「何で今さら」という印象の強い行動だった。まして小生には子どもまでいるのである。しかし、「道楽」の方向に進みだした勢いはとまらず、結局、学費を老親のスネを大きく噛むことになって賭うという居候のような状況となってしまった。よって、家庭でのストレスはかなり大きなものであった。収入は、アルバイトと奨学金以外は何もなく、世帯主としてのプライドは捨て、十代の中高生のように家族内の決まりを守って生活している。世間の同世代の父親の姿とはまるで違っていて、なんとなく威厳に欠け、子供に対しても親としての示しがかたず、現在でも大変困っている。しかしながら、このような多大な犠牲を払っているにもかかわらず、この妄想はなかなか消えてくれない。それどころか、前述の「数々の疑問」は相互に結びつきを持って益々深く大きくなってきた。そしてそれを何とかしようと自分なりのやり方で悪戦苦闘することが、意外に「悦び」となってしまったから始末が悪い。

このように、卒業出来たとは言っても、未だ「大学生」を名乗る域にも達せず、安定的な職業が得られたわけでもない。だが、それはそれほど恥ずべきことも思われないのである。問題は、経済的状況が何時までこういう生活を許すかどうかだ。こればかりは激変するかも知れず、かといって如何ともし難いが、それほど悲観していない。そういうことにはある程度馴れているからである。

おばさん キットピークへ行く

(その5 最終回) 小山 佐枝子
グリフィス天文台は小高い岡の上にある、ロスアンゼルスのはじめのモックのため、観測はどうにやめているが、プラネタリウムと展示コーナーはやっていった。新聞記者I氏は珍しいステレオ写真を撮るカメラを持っていて、いん石を撮っていた。詳しいことはわからないが、カメラに2つのレンズがついていて、そのまま撮るとステレオ写真になると言う。角度を変えて撮ることでステレオ写真になることは知っていたが、ステレオ写真専用のカメラは初めてであった。大変珍しいものが展示してある訳ではなかったが、尾尾先生が本当に珍しいものを見つけて、話して下さった。世界でたった一人、いん石の直撃を受けた婦人(足に当たったらしい)の手紙と写真と当たったいん石が展示してあった。いい物を見つけたと言って、先生は喜んでおられた。グリフィス天文台を後にして、チャイニーズタウンに戻り、久しぶりに日本料理を食べた。お酒も入った勢いで、ロスアンゼルス夜景を見に行ってきた。アベックで行ったら最高の所で100万いえ1000万ドルの夜景であった。ツアーも残り一日となった。十二月十二日(土) どうどうツアーも最後の一日になってしまった。朝から帰国の準備を始める。来るときもかなり持つが多かったが、おみやげやら何やらで荷物は、倍にふくれ上がった。

った。十一時三十分発全日空ジャンボ機NH005便に乗る為にバスはハイウェイをとばした。バスの窓から見る空は雲一つない快晴。こちらに来てから、どうどう雨は一滴も降らなかった。一週間、あつというまの旅だった。キットピークでは4Mの反射望遠鏡に驚き、ローウェル天文台では涙し、グラントキャニオンでは感激し、つくづく十六年間天文を私なりに勉強してきて、本当に良かったと思った。そして天文学と言うLife Studyを持つことができて満足し、自画自賛しながら私は機上の人となった。

成田へ着く少し前、機内アナウンスでみぞれで、温度は4度Cと言う。何と冬!!あわててセーターやヤッケを着込んだ。迎えにきてくれた人に開口一言「雪女が帰って来た!!」と言われた。出発した時も雪、帰国したときも雪、まじしかたないだろう。我が家の男3人が心配であったが、これもまた、けっこうちゃんどやっていた。洗濯も食事も子供たちがやってくれていたし、主人も餓死せずに元気でいられた。主婦が家を空けることは、なかなかできませんが、いなければいけない、けっこうやれるものである。世の主婦のみなさん、「私がいなければ家はダメだ。」なんて思わない方がいいですよ。自分を自分で縛らずに大いに見聞を広める為、外へ出た方がいいと思います。これはこの旅行の付録のような副産物でした。ではさようなら。

おわり

寄付へのお礼

同窓会神奈川学習センター支部会計同窓会の皆様からの寄付していただいた金額は、十一万一千三百六十七円になりました。ここに報告申し上げます。誠にありがとうございます。なお、一般会計内での活動費の不足分について、一口千円単位の寄付をお願いいたしました。振込用紙を同封させていただきます。よろしく願います。



編集後記

関西大震災の被災の皆様にお悔やみを申しあげると共に今後の早期復興に協力していきたいと思えます。

関西大震災とは、比べられませんが、同窓会神奈川支部も財政悪化の波に見舞われています。会報の発行回数、来年度もなんと2回の発行予定です。この貴重な本会報をより有意義な物にするために、ご意見、ご助力、批判等の投稿をお待ちいたしております。

(田)